

比叡山麓の縄文世界
—比叡山西南麓の遺跡を中心に—

文学研究科附属文化遺産学・人文知連携センター

千葉 豊

1. 「比叡山麓の縄文世界」展を企画して

- ・シリーズ企画「文化財発掘」2015 年～ 京都大学構内の遺跡の調査・研究成果を紹介 今回は 10 (X) 回目
- ・2023 年、滋賀里資料研究会編『滋賀里遺跡資料図譜』の刊行
- ・滋賀里遺跡：大津市滋賀里ほかに所在、1948 年、京都大学文学部考古学研究室が発掘調査
- ・滋賀里式の設定と縄文時代から弥生時代への変遷に関する議論：1962 年、坪井清足「縄文文化論」岩波講座日本歴史 1

2. 縄文時代の枠組み

- ・空間的ひろがり
- ・継続期間
- ・空間と時間の整序 土器の編年学的研究の重要性

3. 比叡山西南麓に居住した縄文人の“小さな暮らし方”

(1) 舞台

- ・音羽川・一乗寺川・白川が形成した複合扇状地の上に遺跡は立地する。
- ・照葉樹の森に、落葉樹や河畔林などが入り込む混交林を形成

(2) 調査・研究の歴史

- | | |
|-------|--|
| 1923年 | 京大農学部構内（現・北部構内）を散歩していた濱田耕作が、石斧を採集する。北白川追分町遺跡の発見。 |
| 1934年 | 北白川小倉町の宅地造成区域で、羽館易が多数の縄文土器を発見。梅原末治（当時、京大助教授）を中心に発掘調査。土器の整理は小林行雄。出土土器は、北白川下層式（前期）・上層式（後期）として、標式資料となる。 |
| 1961年 | 一乗寺向畑町で行われていた区画整理事業で遺跡発見。佐原眞らが発掘調査。一乗寺K式が設定される。 |
| 1972年 | 京都大学北部構内の工事現場で石棒（結晶片岩製：晩期）が採集される。大学構内の組織的調査の端緒となる。北白川追分町遺跡は、近畿地方の縄文人の生活を理解するうえで、代表的な遺跡となっている。 |

(3) 明らかになってきたこと

- ・比叡山西南麓における縄文遺跡群の動態
- ・北白川追分町遺跡における土地利用
- ・低湿地は宝箱
- ・紀元前 599 年に伐採された大木
- ・“小さな暮らし方”

参考文献（刊行年順）

- | | |
|-------|--|
| 1991年 | 京都大学文学部博物館編『先史時代の北白川』京都大学文学部博物館図録 第4冊 |
| 2011年 | 千葉 豊「比叡山西南麓の縄文時代遺跡群」『季刊 考古学』第114号、雄山閣 |
| 2012年 | 千葉 豊『京都盆地の縄文世界 北白川遺跡群』シリーズ「遺跡を学ぶ」86、新泉社 |
| 2013年 | 今村啓爾・泉拓良編『縄文時代 上』講座日本の考古学3、青木書店 |
| 2014年 | 今村啓爾・泉拓良編『縄文時代 下』講座日本の考古学4、青木書店 |
| 2017年 | 京都大学文化財総合研究センターほか編『火焰型土器と西の縄文』京都大学総合博物館平成29年度特別展図録 |
| 2024年 | 京都大学総合博物館編『比叡山麓の縄文世界』京都大学総合博物館2023年度企画展図録 |

表1 縄文土器編年表（『日本考古学事典』三省堂、2002年所収の表に、暦年代を加筆）

[illegible]

縄文土器は、時間的にも空間的にも無数の変化を示す。この特徴を利用し、縄文土器を時間軸と空間軸の中に配列することを編年と呼び、それを示した表が編年表である。編年の枠組みを構築した山内清男が 1937 年に作成した編年表には沖縄を除く北海道から九州までの 9 地域にあわせて 100 前後の土器型式が示されたが、現在では数百に達する土器型式が列島各地に設定されている。

土器型式（〇〇式：通常、遺跡名）とは、文様や形態など共通する特徴をもった土器野最小のまとまりであり、時期と地域を示した最小の単位となる。この細別を大きくまとめたのが大別で、草創期・早期・前期・中期・後期・晩期の6期に区分されている。過去の出来事を復原するという歴史学に属する縄文研究において、土器型式の確定、すなわちいつ・どこで起こった出来事なのかを知ることは、研究の根幹をなしていると言って過言ではない。

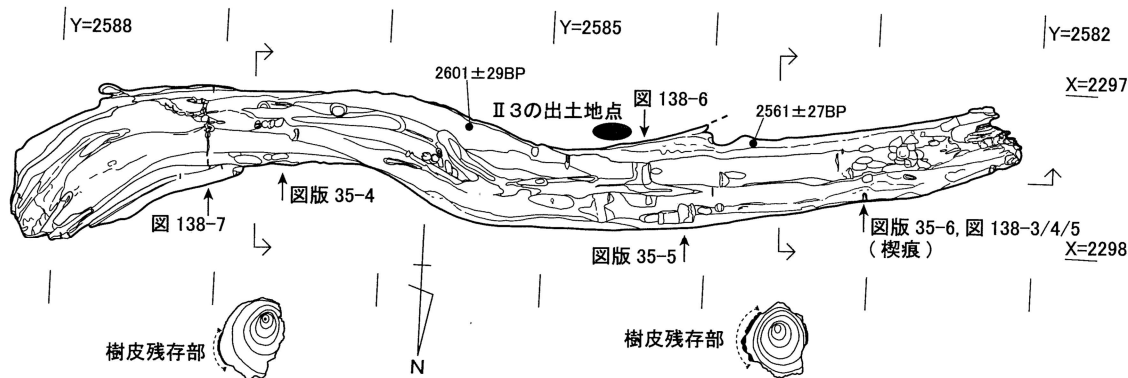


図1 伐採痕跡のある樹木（北白川追分町遺跡・縄文晩期末）

樹齢およそ 140 年のフナ科の大木(残存長 6.2 メートル)。石斧による伐採の痕跡をもつ。
紀元前 599 年に伐採。京大総合博物館ロビーに展示中。

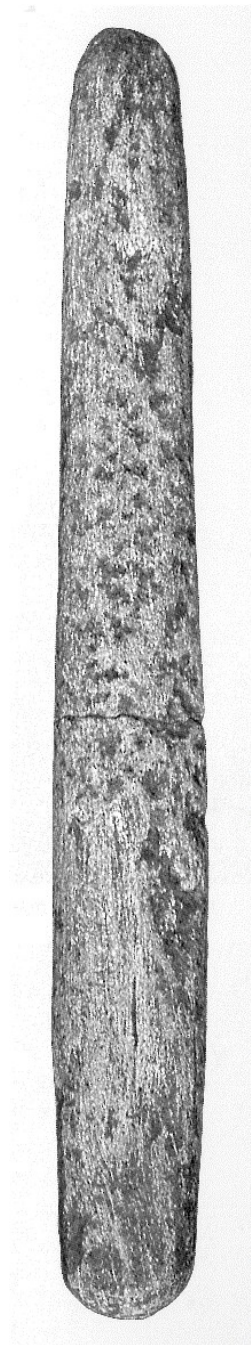


図2 石棒（北白川追分町遺跡）

全長六二、七センチ。結晶片岩製。
縄文晩期の石棒で、一九七二年、校舎
新宮の工事現場で偶然発見された。

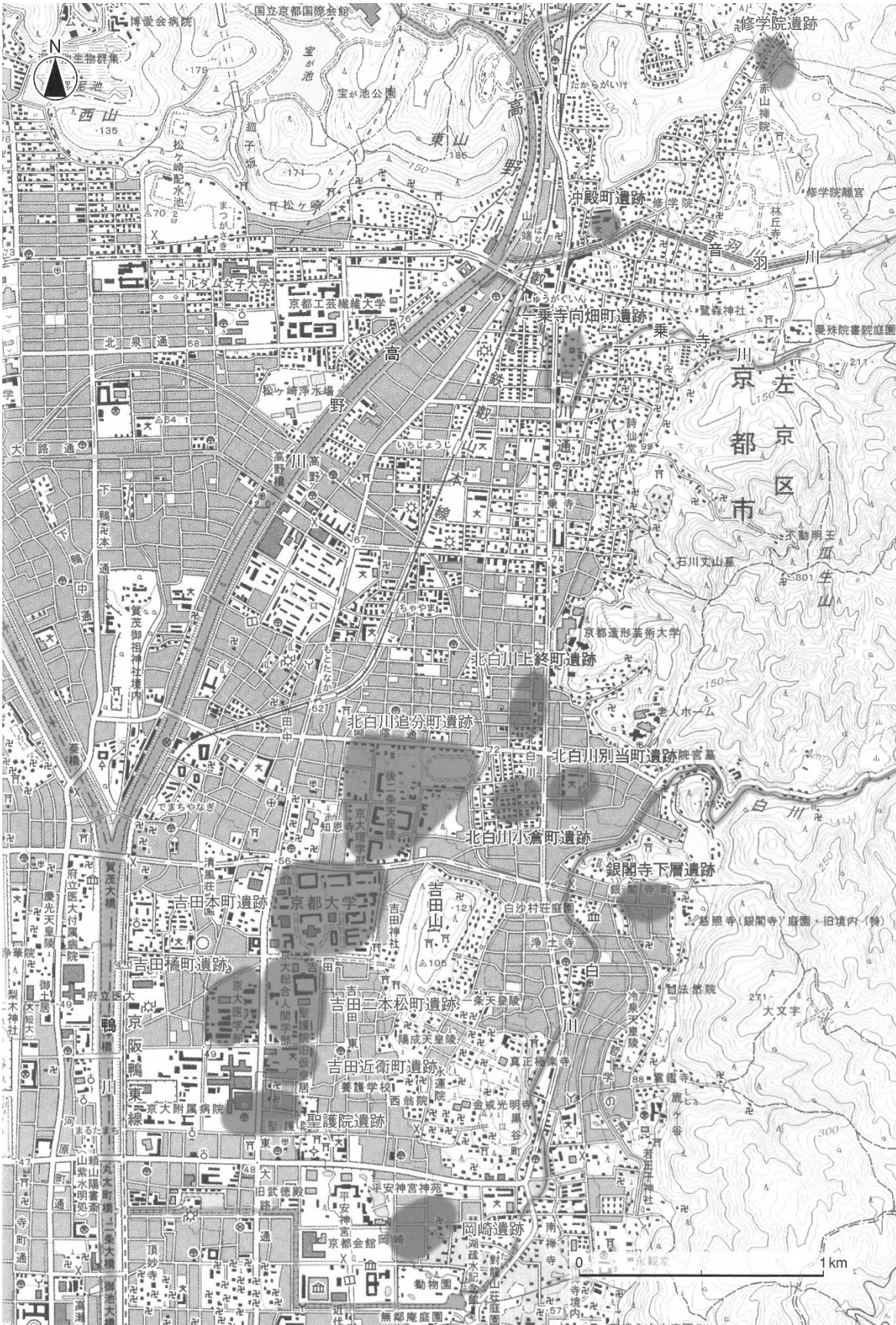


図3 比叡山西南麓に展開する縄文遺跡群

南北5キロ、東西2キロの広がりをもつ比叡山西南麓の複合扇状地上に、10 をこえる縄文遺跡が展開する。細かくみると、遺跡の希薄な地帯をはさんで、北部の遺跡と南部の遺跡に分けることもできる。

表2 比叡山西南麓縄文遺跡の消長

炭素 14 年代
(較正值)

15500 年前

11500 年前

7000 年前

5500 年前

4500 年前

3300 年前

2600 年前

遺跡名 時 期		北白川（比叡山西南麓）遺跡群													
		修学院遺跡	冲殿町遺跡	一乗寺向畑町遺跡	北白川上終町遺跡	北白川小倉町遺跡	北白川別当町遺跡	銀閣寺下層遺跡	北白川追分町遺跡	吉田本町遺跡	吉田二本松町遺跡	吉田橋町遺跡	吉田近衛町遺跡	聖護院遺跡	岡崎遺跡
草創期									●						
早期	押型文(大川・神宮寺式)														
	押型文(黄島・高山寺式)	■		■	▲▼					■					
	宮ノ下式	■		■											
前期	一乗寺南地点下層式			■											
	羽島下層Ⅱ式					■									
	北白川下層Ⅰa式					■									
	北白川下層Ⅰb式					■									
	北白川下層Ⅱa式					■									
	北白川下層Ⅱb式					■									
	北白川下層Ⅱc式					■									
	北白川下層Ⅲ式					■									
大歳山式					■										
中期	鷹 島 式														
	船元Ⅰ式							■							
	船元Ⅱ式														
	船元Ⅲ式														
	船元Ⅳ式														
	里木Ⅱ式														
	北白川C式			▲	▲	■		■	▲						
後期	中津式														
	福田K2式														
	縁帯文成立期														
	北白川上層式1期		■		■			▲▼							
	北白川上層式2期		■		■		■								
	北白川上層式3期														
	一乗寺K式			■											
	元住吉山Ⅰ式			■											
	元住吉山Ⅱ式			■											
	宮 滝 式			■											
滋賀里Ⅰ式			■												
晩期	滋賀里Ⅱ式														
	滋賀里Ⅲa式														
	篠原式														
	滋賀里Ⅳ式							▼							
	船橋式		■		■			▲	■						
	長原式			▲	▲				▲	▲					
弥生前期															

●有茎尖頭器 ▲住居跡 ▲土器棺墓 ▼配石・集石

●有茎尖頭器 ▲住居跡 ▲土器墓墓 ▼配石・集石

比叡山西南麓の縄文遺跡がどの時期に営まれたかをみたもの。太線はまとまった量の遺物が出土している時期。細線は遺物の量がわずかな時期。前期以降になると、後期末晩期初頭の一時的空白期があるものの、遺跡が補完関係をもちつつ、地域全体として連続して遺跡が形成されていることがわかる。縄文集団が場所（遺跡）を移動しつつ、この地域に定着していたことを示している。